

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171600200
法人名	有限会社 コトブキ
事業所名	江北紀水苑
所在地	佐賀県杵島郡江北町大字上小田1268-1 (電話) 0952-71-6310

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年9月18日	評価確定日	平成20年12月18日

【情報提供票より】(平成20年8月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建て造り 1階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費徴収	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(8月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人敬天堂 古賀病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は静かな田園地帯のやや小高いところに位置しており、建物の中を心地よい風が吹き抜けている。毎日の食材は地元の新鮮な旬のものをとり入れるよう配慮されている。園庭の畑にも旬の野菜が実っている。入居者1人ひとりを大切にというスタッフの気持ちが入居者の穏やかな表情とゆったりした暮らしぶりに現れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善課題となった住民参加の避難訓練の実施については、駐在員さんや近隣者の協力を得て年2回実施している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の意義を理解し、評価の過程を通じて質の確保、向上に繋がられるよう日々のケアを振りかえる機会としている。意識向上の糧としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、会議メンバーからの率直な意見をスタッフと共有し現在提供しているケアに満足することなくサービスの質の向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とは訪問のとき、電話での連絡のとき、月1回の便り郵送時などを通じて密な連携を心がけ要望や意見を汲み取るよう心がけている。要望や意見は職員全員で検討し、毎日のケアに生かされている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の人から野菜や花を頂くなどの近所付き合いをしている。音楽ボランティアによる訪問演奏などの交流は入居者の楽しみの一つにもなっている。中学生などの職場体験の受け入れにも積極的に取り組みたいと検討している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「たのしく あかるく こちよく」の理念をモットーに地域を意識した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目の付くところに理念を掲げスタッフ会議、ミーティングの時に確認しながら、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り、老人会など入居者の体調に合わせて参加している。老人会の運動会では飛び入りで参加するなど積極的な交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて実践につなげるための努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーから広い視野での意見をもらい改善課題を話し合い、改善に向けての具体的な取り組みにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、イベントの情報をもったりレクリエーションの活性化についての情報交換などのほか、運営やサービスの課題について相談できる関係ができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ホーム便り」を発行し生活の様子を報告している。体重の増減や睡眠、排便などの細かい状況報告がなされている。体調をくずされた時は随時電話連絡し適切な対応が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時などにも積極的に声をかけ、話の中から家族の意見を汲み取るようにしており、サービスの質の向上に向けた改善の良き材料としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	例えばベテラン職員と新人職員のペア勤務など、勤務体制を工夫している。また、離職後も施設を訪れ、入居者との交流を継続されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加しやすいように勤務時間内に研修が受けられる職場づくりが行われている。法人の研修会だけでなく事業所内の研修も隔月行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回他のグループホームと交流研修会の機会をつくっている。入居者同士の交流会も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少しずつ慣れていただくために入居前に家族と一緒に見学体験を勧めている。入居後には家族等に頻りに足を運んでもらうような働きかけを心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるとともに同じ家族の一員であるという気持ちで支援している。農耕のこと、風習に関すること、歴史的なこと等入居者の人生経験から学ぶことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の生活のサイクルに留意した支援に心がけている。入居前の生活や趣味を可能な限り継続できるような支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの意向や希望を聴いている。職員からの情報もケアプランに反映している。進捗状況は家族にも報告している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の定期的な見直しだけでなく状態変化に応じて随時計画の見直しが行われている。その場合は本人、家族との意見の交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて、病院への付き添いなどの支援が行われている。日用品の購入も本人や家族の意向が汲まれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への受診の継続を支援している。また、協力医療機関との連携により日ごろの健康管理が行われている。24時間の医療連携体制も確保されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護指針があり、入居契約時には家族にもその説明がされている。健康状態に変化があれば随時家族との話し合いがもたれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、全職員に周知徹底されている。個人情報となる記録物は保管庫に収納されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが 無理強いすることなく入浴時間や食事時間の調整、食事内容や形態の変更など一人ひとりの希望やペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った食の提供を心がけている。行事食も利用者と一緒に考えている。十五夜の際は入居者の方の発案でお団子と一緒に作るなどしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴の支援を行っている。沐浴剤で温泉の雰囲気を楽しんだり、浴室で歌を唄うなどして楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には自分でできることは自分でしてもらっている。箒を持って掃除をする人、洗濯物をたたむ人等それぞれに役割がある。また、おしゃべりや歌で楽しく生活を活性化する支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	園庭の散歩を日課としている。天候のよい日は町内の公園までドライブに行っている。食材の買出しには利用者と一緒に出かけ食材の選択も相談しながらしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害について、勉強会などで十分理解しており、日中は原則として鍵をかけないケアに取り組んでいるが安全面から一部、一時的に鍵をかける場合がある。	○	入居者の安全を迫りながら自由な暮らしを支えるため、鍵をかけないでよく更なる工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練と消火訓練を行っている。運営推進会議では状況を説明し理解を得ている。災害に備えてパンやカップめん、レトルトご飯などを備蓄している。また、ガスコンロも準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の野菜を中心とした高齢者向けの栄養バランスの取れた献立を管理栄養士の指導を受けながら作っている。一人ひとりの食事の量、水分量など把握し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの景色で季節感を感じることもできるが絵画などの飾り物での居室づくりが工夫されている。職員の声のボリュームにも配慮されている。居宅内を風が吹き抜けるため臭気は籠らない。西陽に対しては、よしずや、すだれで調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで自宅で愛用されていた食器をホームでも使ってもらっている。居室には家族の写真を置いたりテーブルやぬいぐるみを持ち込まれている方も居られる。心地よい空間づくりが支援されている。		